

# 環境科学シンポジウム —むつからのメッセージ— 講演要旨集

会期：平成17年11月10日(木)、11日(金)  
会場：プラザホテルむつ

## 主催

独立行政法人日本原子力研究開発機構むつ事業所  
独立行政法人海洋研究開発機構むつ研究所  
財団法人日本海洋科学振興財団むつ海洋研究所

## 後援

青森県教育委員会、むつ市、むつ市教育委員会



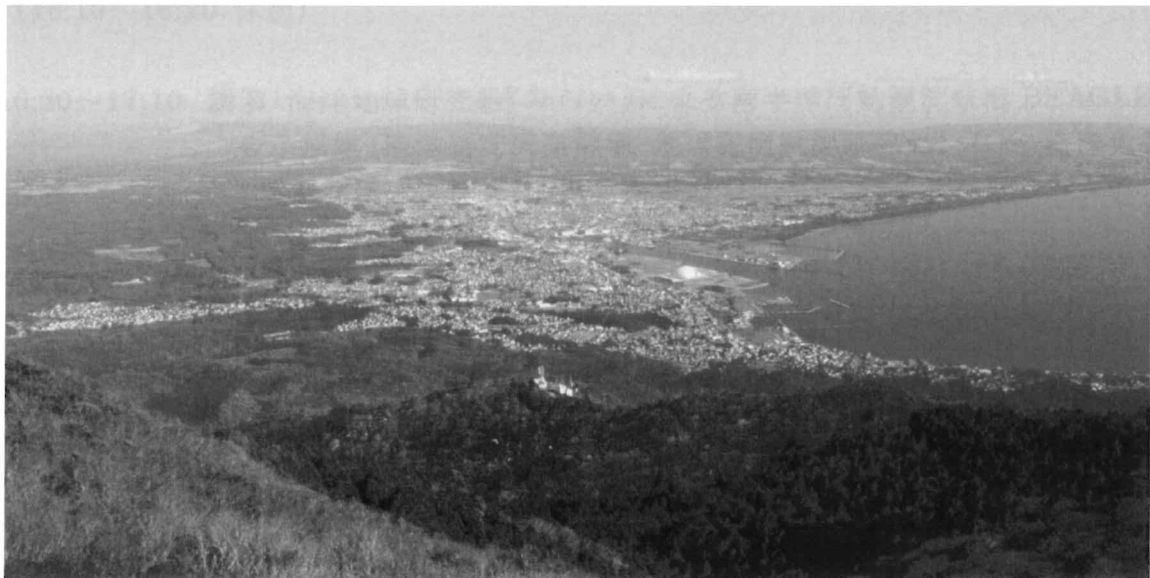
## 環境科学シンポジウム—むつからのメッセージ

### ご挨拶

このたび下記の3機関は、むつ市等の後援のもとに、本年11月10日及び11日に「環境科学シンポジウム—むつからのメッセージ」を共同して開催することとなりました。

本シンポジウムでは、研究活動の一端を地元及び関係機関の方々に紹介するとともに、関連研究分野について最先端の研究発表を行います。また、関係各機関等からのご講演をいただき、海洋科学を中心とした環境科学に関する研究活動の活性化に資することを目的としておりますので、ご参会の皆様のご活発なご討論を期待いたします。

独立行政法人日本原子力研究開発機構むつ事業所長	伊藤 治彦
独立行政法人海洋研究開発機構むつ研究所長	深澤 理郎
財団法人日本海洋科学振興財団むつ海洋研究所長	中野 昭二郎



釜臥山展望台から眺めたむつ市街、陸奥湾及び太平洋

## 環境科学シンポジウム—むつからのメッセージ

- 開催日： 平成 17 年 11 月 10 日 (木)、11 日 (金)  
開催場所： プラザホテルむつ  
(青森県むつ市下北町 2-46、JR 大湊線「下北駅」下車徒歩 3 分)  
主催： 独立行政法人日本原子力研究開発機構むつ事業所  
独立行政法人海洋研究開発機構むつ研究所  
財団法人日本海洋科学振興財団むつ海洋研究所  
後援： 青森県教育委員会、むつ市、むつ市教育委員会

### プログラム

#### 第 1 日： 11 月 10 日(木)

- 15:00～15:05 開会挨拶 日本海洋科学振興財団 (平野拓也 理事長)
- 15:10～16:10 3機関研究活動・成果報告
- 15:10～15:30 海洋研究開発機構むつ研究所 (木下 肇 理事)
- 15:30～15:50 日本原子力研究開発機構むつ事業所 (伊藤治彦 所長)
- 15:50～16:10 日本海洋科学振興財団むつ海洋研究所 (中野昭二郎 常務理事・所長)
- (16:10～16:20 休憩)
- 16:20～17:10 講演「海洋地球研究船『みらい』による南半球周航観測航海 BEAGLE」  
金子郁雄 (海洋研究開発機構 地球環境観測研究センター 海洋大循環観測研究プログラム 大循環力学グループ グループリーダー)
- (17:10～17:20 休憩)
- 17:20～18:20 特別講演「三内丸山遺跡—明らかになってきた全体像」  
齋藤 岳 (青森県教育庁文化財保護課 三内丸山遺跡対策室  
文化財保護主幹)
- (18:20～18:30 休憩)
- 18:30～20:00 懇親会

**第2日:11月11日(金)**

9:00~9:05 開会挨拶 日本原子力研究開発機構 (伊藤治彦 所長)

9:05~9:35 セッション1: 実験観測手法 座長:天野 光 (日本原子力研究開発機構)

「海洋における自動ガンマ線計測機器の整備」  
島 茂樹 (日本海洋科学振興財団 海洋研究部)

9:35~10:35 セッション2: AMS、年代測定、古環境、考古学 座長:天野 光  
(日本原子力研究開発機構)

「AMSの現状—主に<sup>14</sup>C-AMSについて」  
小林紘一 ((株)パレオ・ラボ AMS年代測定施設、  
元東京大学原子力研究総合センター)

「タンデトロンAMSの開発と利用の現状」  
北村敏勝、甲昭二、鈴木崇史、天野光 (日本原子力研究開発機構  
むつ事業所 施設部)

(10:35~10:50 休憩)

10:50~11:30 セッション3: 海水循環 座長:淡路敏之 (海洋研究開発機構)

「日本海中・深層の水塊形成と海水循環」  
千手智晴 (九州大学 応用力学研究所)

11:30~12:10 セッション4: 地球環境変動 座長:淡路敏之 (海洋研究開発機構)

「C-14等を用いた北太平洋における数十年スケール変動の解析」  
熊本雄一郎 (海洋研究開発機構 地球環境観測研究センター)

(12:10~13:00 昼食)

13:00~14:00 研究発表 (ポスターセッションの部参照)

14:00~15:20 セッション5: 海洋における物質循環 座長:河村日佐男  
(日本海洋科学振興財団)

「マクロとミクロの目でみたヨウ素の地球化学的挙動」  
村松康行 (学習院大学 理学部)

第2日:11月11日(金)(続き)

セッション5: 海洋における物質循環(続き)

“Energy source or green house gas: I-129 and the origin of  
marine gas hydrates”

Dr. Udo Fehn (Univ. of Rochester, Rochester, NY, USA)

(15:20~15:30 休憩)

15:30~16:20 セッション6: シミュレーションモデルとその適用 座長: 島 茂樹  
(日本海洋科学振興財団)

「データ同化による海況の監視・解説・予測」

淡路敏之 (海洋研究開発機構 地球環境フロンティア研究センター)

16:20~16:25 閉会挨拶 海洋研究開発機構 (木下 肇 理事)

第2日:11月11日(金)

13:00～14:00 ポスターセッション

P 2: AMS、年代測定、古環境、考古学

P 2-1 「JAEA-Mutsu における加速器質量分析装置を用いた  $^{129}\text{I}$  応用研究」

○鈴木崇史<sup>1</sup>、北村敏勝<sup>2</sup>、甲 昭二<sup>1</sup>、磯貝啓介<sup>3</sup>、伴場 滋<sup>3</sup>、片山淳<sup>4</sup>、亀尾 裕<sup>4</sup>、桑原 潤<sup>1</sup>、坂本信也<sup>1</sup>、外川織彦<sup>5</sup>、天野 光<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>日本原子力研究開発機構 施設部 AMS 管理課、<sup>2</sup>日本原子力研究開発機構 施設部、<sup>3</sup>日本分析センター、<sup>4</sup>日本原子力研究開発機構 バックエンド推進部門、<sup>5</sup>日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究部門)

P 2-2 「東大 MALT の  $^{129}\text{I}$ -AMS システムと土壌中の  $^{129}\text{I}$  分析」

○松崎浩之<sup>1</sup>、村松康行<sup>2</sup>、加藤和浩<sup>1</sup>、高田ゆかり<sup>2</sup> (<sup>1</sup>東大・工、<sup>2</sup>学習院大・理)

P 2-3 「冷湧水起源炭酸塩沈殿物のヨウ素-129 測定の可能性についてーマリアナ前弧域、蛇紋岩海山産炭酸塩を例としてー」

○加藤和浩<sup>1</sup>、松崎浩之<sup>1</sup>、村松康行<sup>2</sup>、高田ゆかり<sup>2</sup> (<sup>1</sup>東大・工、<sup>2</sup>学習院大・理)

P 2-4 「AMS による三内丸山遺跡木柱の C-14 測定」

○賀佐信一、河村日佐男 (日本海洋科学振興財団)

P 2-5 「石川県内で採取した樹木年輪中のトリチウム及び  $^{14}\text{C}$  濃度の長期的変動」

○安池賀英子<sup>1</sup>、山田芳宗<sup>1</sup>、小村和久<sup>2</sup> (<sup>1</sup>北陸大・薬、<sup>2</sup>金沢大・理 LLRL)

P 3: 海水循環

P 3-1 「日本海における海洋環境評価システムの構築」

川村英之<sup>1</sup>、小林卓也<sup>1</sup>、広瀬直毅<sup>2</sup>、伊藤集通<sup>1</sup>、外川織彦<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>日本原子力研究開発機構、<sup>2</sup>九大・応力研)

P 4: 地球環境変動

P 4-1 「西部北太平洋域の Station KNOT における溶存無機炭素の経年変化」

○脇田昌英<sup>1</sup>、渡邊修一<sup>1,2</sup>、村田昌彦<sup>2</sup>、熊本雄一郎<sup>2</sup>、佐々木建一<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>海洋研究開発機構 むつ研究所、<sup>2</sup>同 地球環境観測研究センター)

第2日:11月11日(金)(続き)

13:00~14:00 ポスターセッション(続き)

P 4-2 「植物プランクトン分布と一次生産量の変動－太平洋赤道域において ENSO が及ぼす影響について－」

松本和彦 (海洋研究開発機構 むつ研究所・地球環境観測研究センター)

P 4-3 「北西部北太平洋観測定点における  $^{234}\text{Th}$  を用いて見積った POC flux の季節変化」

○川上 創、本多牧生 (海洋研究開発機構 むつ研究所)

P 5: 海洋における物質循環

P 5-1 「日本海における人工放射性核種の蓄積量の見積もり」

○伊藤集通、乙坂重嘉、川村英之 (日本原子力研究開発機構)

P 5-2 「日本海における粒子状物質の輸送過程」

乙坂重嘉 (日本原子力研究開発機構)

P 5-3 「六ヶ所村沖合堆積物中の放射性核種蓄積状況」

○小藤久毅、賀佐信一、澤藤奈都子、森 将志、中山智治、西澤慶介、久慈智幸、伊勢田賢一、島 茂樹、河村日佐男 (日本海洋科学振興財団)

P 6: シミュレーションモデルとその適用

P 6-1 「SEA-GEARN によるビキニ環礁周辺における核実験の北太平洋への影響の試算」

○松浦康孝<sup>1</sup>、中山智治<sup>1</sup>、印 貞治<sup>1</sup>、賀佐信一<sup>1</sup>、島 茂樹<sup>1</sup>、小林卓也<sup>2</sup>、外川織彦<sup>2</sup>、石川洋一<sup>3</sup>、淡路敏之<sup>3</sup> (<sup>1</sup>日本海洋科学振興財団、<sup>2</sup>日本原子力研究開発機構、<sup>3</sup>京都大学大学院)

平成 17 年 11 月 10 日発行

---

独立行政法人日本原子力研究開発機構むつ事業所  
独立行政法人海洋研究開発機構むつ研究所  
財団法人日本海洋科学振興財団むつ海洋研究所

---